



《旭ヶ丘から眺める八ヶ岳》

鉢盛おろし

朝日

旭ヶ丘から眺める八ヶ岳は、塩尻峠の低くなった稜線がちょうど八ヶ岳を引き立てるような構図になっていて、毎朝通勤途中にその雄大な姿を眺めていると清々しい気持ちにしてくれます。冬から春にかけては白化粧した八ヶ岳がより美しく映え、雲海から首を出した山頂も幻想的です。東電道路を走っていてもまだ見えますが、塩尻峠や高ボツチが相対的に大きく見えるようになるためか、旭ヶ丘から見るときの方が際立って見える気がします。そんな八ヶ岳も朝日村が出る頃には徐々に高ボツチ高原の影に消えていき、まもなく全く見えなくなってしまうです。朝日村が八ヶ岳を借景として独り占めしているかのようです。朝日村の村名は松本盆地で朝日が一番先にあたることに由来すると言われていています。塩尻峠に八ヶ岳を足してもまだその稜線は他よりも低く、実際に日の出を見ていると、松本盆地の西側の中でも朝日村に、一番先に朝日を届けてくれていると実感します。コロナ禍の暗い雰囲気にも一日も早く朝日が届くことを願うばかりです。

朝日村旧役場庁舎解体工事及び 地域の避難場所としての整備計画について

1月31日より3月25日までの予定で、旧役場庁舎を解体し、更地にするまでの工事が行われています。また、その後には令和4年度事業により、旧役場庁舎の跡地に、地域の避難場所が整備される計画となっています。

旧役場庁舎は、昭和11年の建築で、築86年を経過する県内でも最も歴史のある、木造2階建て洋風の建物でありました。現庁舎への移転に伴い、旧庁舎を残すことも検討されましたが、耐震化工事等の高額な改修費用や具体的な活用方法が見つからないことから、解体されることが決定していました。

1月28日に行われた解体工事の安全祈願祭では、村長より、「95歳になるおふくろが、小学生の頃の思い出として、旧役場庁舎建設中、台風が大風が吹いた時に、当時の小学校の先生方がみんなでもっていそいで出て行き、建設中の建物を支えた。」というエピソードも紹介されるなど、「当時の建築作業に関係した人」・「旧庁舎で勤めていた人」・「旧庁舎を利用した

人」・「旧庁舎建物の解体をカメラで記録していた少年達」等、それぞれたくさん思い出がある建物であったと思います。村の顔として86年間の活躍、本当に「苦労様でした」。

なお、旧庁舎に併設されているトイレと防災倉庫はそのまま残し、今後災害時に小野沢区の拠点避難地として活用される予定です。



解体工事安全祈願祭



3/3現在解体工事



解体工事中

令和4年度拠点避難地整備計画

小野沢区には、大規模災害(地震)発生時に避難地となる施設がないため、旧役場庁舎跡地を拠点避難地として整備する計画です。

【工事計画内容】

- 規模 …… 既存村有地 1,143㎡
避難想定者数 500人(2㎡/人)
- 効果 …… 村指定の拠点避難地(村の防災拠点及び、小野沢区(新田上・下地区)の避難地)
- 整備構想 …… (既存施設)防災備蓄庫、公衆トイレ
(新設)夜間照明、防火水槽、貯水槽、マンホールトイレ、かまどベンチ 等



旧役場庁舎



ジョーズ おらが村の地元職 ⑤



有限会社オールライト

平成7年に会社を設立し、コンピューター制御を軸とした生産設備を中心に、生産工程管理システムや検査測定装置などの製品を製造しています。主な取引先はセイコーエプソン株式会社をはじめとした家電業界です。

経営理念である「世界の人人々に日本の匠の技術と誠実なもののづくりを提供し、社会の発展に貢献する。」を胸に工学分野での日々進歩する新たな技術をたえず学び、社会の豊かな暮らしに貢献するべく、技術力と発想力の向上に社長はじめ社員全員で取り組んでいます。社員には村内出身、在住の方もいますが、「今後は今よりも村内の方の雇用

を増やしたい。正社員、アルバイト、パート、希望の雇用形態で受け入れたい。」と地域活性化にも目を向けています。また、ごみ拾いなどのボランティア活動を通じての地域貢献も定期的に行っています。

【連絡先】

有限会社オールライト

☎ 99-5717



社屋の全景

通気弁評価装置

バルブメーカー様ご依頼の画像判別機能とPCによるデータ処理機能の評価装置



サブタンク

密閉対象商品が、全く新しいタイプの通気弁を有し、高圧流体、浸入異物、過熱、過圧、高体温度、の検証を、フレキシブルな設定と三階立てアパーと同負荷の配管経路を搭載し自動流水実験を行い、画像データ収集、良否判定、製品開発の判断材料としてPCによるデータ処理を行う装置。



ワーク投入ユニット



ワーク回収ユニット



画像ユニット



画像ユニット

製品の案内



居酒屋 かつぺ

旧朝日村役場を朝日プライムスキー場方面に500メートル程行った所にお店が在ります。昔は、畑だったところにお店を建て平成18年9月から営業をされているそうです。店内は店主の山崎さん自らが塗った壁やお酒の空きボトルが並んだ棚が有り、とてもオシャレで落ち着いた雰囲気の中お酒や料理を楽しめます。

お店の料理で使われている魚は、山奥にもかかわらず高知と鳥取の漁港から直送で仕入れていて、夕方に水揚げされた魚が次の日の2時〜3時にはお店に届き、とても新鮮な魚が味わえます。これからの時期はアジやサバがおススメです。

食材は、9割以上国産の物を使用していて、夏にはお店の裏の畑で自家栽培した野菜も味わえます。作っていない野菜は朝日村の農家の方々から色んな野菜を頂いて、お礼にお酒や料理を振舞っていて、とてもいい関係を築いています。

店主の1番のこだわりは、「出来ないと言わない」だそうです。

お客様の要望を聞いて、その場の食材を見ながら料理を提供するのがこだわりだそうです。

お酒は、店主自身もお酒好きという事でお客様に合わせたお酒や常連さんに飽きられない様に、常に新しいお酒を仕入れています。

色々な料理や、お酒を味わいには是非とも居酒屋かつぺに足を運んでみてはいかがでしょうか。

【営業時間】

午後5時〜午後11時まで

【定休日】

毎週月曜日

【連絡先】

☎ 99-3919



居酒屋かつぺ



店主が塗った壁

熊久保だより

「朝日美術館・民俗資料館発行」

続・展覧会報告

11月13日～12月19日

みんなの葉こもり作品展

当初開催予定だった「第4回朝日村高齢者作品展」の作品を募集するにあたり、コロナ禍で誰もが家で過ごす時間が増えていたので、この一年、作品づくりに励んだ方も多いのでは？との思いから、高齢者に限定せず幅広い年代から作品を募集する展覧会を企画しました。



初めて出品された方も大勢いました

すると、朝日村出身または在住の10代から80代まで22名の方から想いのこもった様々な作品が集まりました。どれも完成度が高く、観覧者からは「朝日村には才能を隠している

人がこんなにいるのですね」と驚く声がたくさん聞かれました。

きつと今回は出品いただけなかった方もおられると思いますので、また第2弾を開催する予定です。その際は改めてお知らせしますので、これからもぜひ制作に励み、出品してくださいますようお願いいたします。



繊細な切り絵作品

令和4年度 展覧会のご案内

4月1日～5月29日

高島仁回顧展

「松本城下の水彩画家」

高島仁は明治33年に松本市西町に生まれました。松本

県ヶ丘高校などで長年美術教師として勤めながら水彩画家として活躍し、中信地区の美術の発展に尽力、多くの後進の美術家を育てました。

高島は群衆の風景を描いた絵画作品を多く残しました。草競馬やサーカス、祭り、オーケストラなどを見に行つた高島はその場では一切写生はせず、家に戻り、頭の中で構想をまとめ、下図となるデッサンを描きました。新聞紙に墨でおびたらしい線を描き、自分のイメージにぴたりとくる線が引けるまで線を引き続けました。



好んで描いたモチーフ《城下の踊り》

高島の描いた線と色彩がリズムを生み、生き生きとした画面を作り出しています。

競馬場の賑わいが、演奏者の奏でる音楽が、祭りの喧騒が作品から聴こえてくるようです。展覧会では水彩画約70点を展示します。

今回は高島の教え子であり、ご遺族と親交のある画家・中村石浄氏のご尽力により、貴重な作品をお借りして展覧会を開催します。



臨場感のある《高ボッチ草競馬》

6月4日～7月31日
カミジヨウミカ展2021+1
「辛虫のような手指で描く自分」

昨年9月に予定していた「カミジヨウミカ展」は、松本圏域の感染警戒レベル5を受けて延期となり、今年開催する運びとなりました。

ミカさんは世界でも稀な

常染色体劣性遺伝性疾患のため、関節痛や体のこわばりを抱えながら30年以上車いす生活を送っています。そして、絵を描くことに没頭することで、その痛みや辛さを乗り越えてきました。

近年の作品には、ミカさんが夢に見たり、空想したりしたカラフルな世界が描かれています。絵を描くとき、ミカさんは自分の体から自由になります。その自由な体と心で見える世界を私たちにも絵を通して体験させてくれます。



《某ある族の家族》2018年

昨年はこの個展を目標に制作しておられたのが延期となり、どんなにか落胆されたら

思いますが、きっとその思いも含めてさらなる進化が作品にもたらされることでしょう。



《鬼才なアメーバたち》2019年

8月6日～9月25日
朝日村つくりびと展

朝日村で創作活動をしている皆様の作品を一堂に会して紹介する展覧会を初めて開催したのは平成23年でした。

その後、2回目となる平成30年の開催では新たな作家も加わり、朝日村つくりびと(朝日村を生活・創作の拠点にもつくりを通して村の発展を願う人たち)の輪は広がりを見せています。

朝日村つくりびとはジャンルを問いません。朝日村での暮

らしを愛し、人々の暮らしをより豊かにするものを生み出している人はすべて含まれます。

朝日村には木工関係の作家が大勢おられますが、年々新たな分野の若手作家が増えていきます。今回はどんな作品が並ぶでしょうか。自薦・他薦は問いませんので、朝日村で創作活動をされている方の情報がありませんでしたら、ぜひ朝日美術館までお寄せください。



羊毛作家の展示コーナー(H30)

10月1日～11月27日
加藤邦彦・温子展

加藤邦彦・温子夫妻は、愛知県立芸術大学卒業後ともにドイツに渡り、40年以上ドイツで作家として活動を続けてきました。邦彦さんは植物の種子や原始生物を思わせる抽象

的な彫刻を、温子さんはイチゴウをモチーフに油彩画や石版画を制作しています。



制作中の温子さんの絵画作品

縄文むら公園には邦彦さんが制作した赤御影石の彫刻《生き物RG2011》が設置されていますが、これはドイツ在住35周年記念展を朝日美術館で開催していただいた折、寄贈してくださったものです。



邦彦さんの《生き物》新作

その後、平成29年に帰国した二人が環境も新たに制作した作品を初公開します。

*新型コロナウイルス感染症状況により展覧会や関連イベントが中止・延期になる場合があります。詳しくは、当館ホームページにてご確認ください。

美術館収蔵作品紹介 ⑥

三ツ橋良二デザイン
《木曾御獄観光ポスター》



画家・三ツ橋良二氏のデザインしたものでした。

三ツ橋良二は大正8年に東京八王子に生まれますが、父親の都合で現在の木曾郡上松町へ越してきます。木曾中学校、山梨の工業高校と進学する中で再び東京へ。さらに戦争から復員後、再度長野県に移り住みます。

2013年に朝日美術館で開催された「昭和30年代に画家が描いたポスター」展の準備段階において、画家・桂重英氏のご遺族から寄贈されたポスターを中心に、複数の方から寄贈・寄託していただいたポスターが現在約540点収蔵されています。

三ツ橋は油彩画家として活躍する一方、多くの観光ポスターやチラシ、包装のデザインなどを手掛けました。工業高校で学んだ理数系の知識と、木曾や山梨の自然から培った感性が、緻密で温かく深みのある三ツ橋独自のデザインを生み出しました。

昨年、北アルプス展望美術館で開催された「デザインで山あそび！」展開催時に当館所蔵の観光ポスターの借用依頼があり、十数点を貸し出しました。先方の学芸員やデザイナーの方により選ばれたポスターの多くが長野県木曾にゆかりのある

三ツ橋のデザインは今でも古びておらず、木曾の和菓子店「田ぐち」のほうば巻きの紙袋や、同じく木曾の和菓子店「芳香堂」のそば饅頭の包装紙などにその姿を見ることが出来ます。

窓口情報

※本人の了解を得て掲載しています。

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
下洗馬	田村 丈一	82	田村美代子
本郷	三沢 達司	83	三沢 清孝
下古見	上條 逸二	97	上條 弘志
御馬越	原 ケサエ	93	原 昭人
新田上	上條 俊策	78	上條 順子
中通	高橋 富雄	96	本 人
中組	三村 晃内	88	三村 光子
北村	筒井 久江	94	筒井 常夫
沢下	小林 人司	89	小林 次人
原新田	中村 香久子	87	中村 宏
御道開渡	斉藤 さだ子	97	斉藤 深志
新田下	小林 栄子	84	小林 浩

新型コロナワクチン 追加接種(3回目)が始まる

新型コロナワクチンの感染予防効果や高齢者の重症化予防効果について、時間の経過に伴い徐々に低下していくことが示唆されていることから、朝日村でも初回接種を受けた方を対象に追加接種が始まりました。

- 対象者
2回目の接種終了日から原則
8カ月以上経過した18歳以上
- 接種会場
トレーニングセンター
- ワクチン
ファイザー社、モデルナ社 ※ワクチンを選択することはできません
- 接種予定
2月より65歳以上から接種が始まっております



接種会場

【お問合せ先】朝日村役場 住民福祉課 ☎99-2540

土偶



お台所
エッセイ

さとう しげみ
150 佐藤 茂美
(桜ヶ丘)

子供時代に教科書で土偶をみた。当時アポロ月面着陸の大きな話題があった頃で、私はこの土偶が宇宙服を着た宇宙人だと思いつきワクワクした。しかし学校での全く異なる説明にガツカリしたことを覚えている。それから半世紀程も過ぎた最近になって、『古代の宇宙人』という海外のテレビ番組を見た。茅野市で出土した土偶『仮面の女神』も紹介され、世界中の紀元前遺跡で宇宙服姿に見えるような彫刻も紹介された。空から来た者が医療や農業など様々な技術を人間に伝授したとの言い伝えもあり、宇宙人を神のように崇めたたえて、遺跡や土偶にその記憶を残したのではないかという説明に、私は子供の頃のようにワクワクしてしまった。ここ朝日村でも縄文遺跡が出土する。楽しい想像力を駆り立ててくれる縄文にハマリそうである。

仮面の女神

みんなのアトリエ



朝日小学校6年1組
あらい あこ
新井 愛子さん
「お寺」

下の地面を布でポンポンして、全体にいきわたるようにしました。細かい柱の色も頑張りました。



朝日小学校6年1組
きよさわ こうへい
清沢 昂平さん
「建物を抜けた先には」

絵は影の場所が多いので、色々と足して塗れて、中心となる建物が目立つように工夫ができました。



朝日小学校6年1組
しおはら さくらこ
塩原 桜子さん
「本堂の絵」

真ん中の像が難しく、細かいところに時間がかかってしまったけど、しっかりと全体を描けたので良かった。



朝日小学校6年1組
きよさわ ゆうと
清澤 友翔さん
「古川寺にあったお気に入りの場所」

色づかいや傾き具合が上手にできました。狛犬が思ったより良くできました。あと瓦屋根を丁寧に描くことができました。